

平成 17 年度

## 認知症介護研究報告書

<認知症高齢者の自立支援及び QOL と  
ケアの向上に関する研究事業>

社会福祉法人 仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

## まえがき

最近、いたるところで認知症のことが話題になっている。このところ、高齢化が目立ち、65歳以上人口が20%を越える時代になり、また、後期高齢者が前期高齢者を上回り、高齢者層自体もより高齢化し、アルツハイマー病を中核とする認知症が目に見えて増えてきているためでもあろう。認知症の発生は、年齢依存的で、高齢になればなる程高率になることが分かっているだけに、認知症のことが、より身近な問題になっていることは確かである。現在、160万とも190万ともいわれている認知症は、10～15年もすれば倍増するともいわれている。これだけ有病者が増えると、自分の周辺の認知症患者の存在に気付く機会が多くなり、誰しも、他人事ではなく、やがて自分にも降りかかるのではないかといった心配と危惧に襲われている。

認知症の病因には様々なものがあり、その要因により症状のあり方や病態も異なり、一律に論ずるわけにはいかない。巷間では、このことについての認識が十分ではない。発症には、様々な要因が重なり、その解明はまだ明確にされていないが、栄養、運動、休養などの生活習慣が何らかの関連をもっていることが指摘され、最近やかましく言われている生活習慣病の一つに加えられている程である。発症をめぐるこうした考え方は極めて重要で、発症予防にもつながることであり、様々な生活習慣の改善は勿論、最近では積極的な脳機能の賦活が話題になっている。

認知症の症状、病態の特異性から、最も重要なことは、介護をどのようにするかのことであろう。この問題をめぐり、全世界を上げて取り組みが行われ、様々な方法が具体化されつつあるが、まだシステム化され、普遍化される段階には至っていない。認知症の増加を目の前にし、介護をどうするかは最も重要な課題であり、急務でもある。それだけに、各角度から、各地で、介護を中心にした研究が行われ、これまでもいくつかの成果があげられてきた。

大府センターでも平成12年度からこの問題に取り組み、様々な角度、側面からの成果をあげてきた。継続事業として毎年それぞれのテーマについて研究

と発表を行い、認知症介護の現場に何がしかの貢献をしてきた。平成１７年度についても介護のあり方、内容の検討と共に、それを通じ認知症患者のＱＯＬの向上を目指し、種々の研究を実施してきた。

この報告書には、それぞれの研究成果の詳細が収録されている。その内容は、いずれも各研究者の英知と努力の結晶で、認知症研究の一頁を飾るものであり、また認知症に悩む多くの患者に一縷の光明を与えるものと確信する。今後のさらなる研究の発展を期待すると共に、これらの貴重な事業、研究の推進力となられた方々をはじめ、関係者の方々に深甚の謝意を表する。

平成１８年３月

社会福祉法人 仁至会

理事長 祖父江 逸郎

## 目 次

### 平成 18 年度研究成果

- 1) 「大都市における認知症高齢者を地域で支えるシステムづくり」モデル事業……………  
主任研究者 柴山 漢人(認知症介護研究・研修大府センター)  
分担研究者 黒川 豊(名古屋市千種区黒川医院)  
研究協力者 中出 泰充(名古屋市千種区医師会)  
小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)  
上松 正幸(名古屋市千種区池下やすらぎクリニック)他
- 2) 前頭側頭型痴呆のケア方法の確立と評価に関する研究  
-前方型痴呆の介護者用小冊子を配布した後の介護者の意識の変化-……………  
分担研究者 池田 学(愛媛大学医学部神経精神医学講座)  
研究協力者 品川 俊一郎(愛媛大学医学部神経精神医学講座)  
繁信 和恵(総合病院浅香山病院精神科)
- 3) アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症のケアに関する研究……………  
主任研究者 小阪 憲司(聖マリアンナ医学研究所)  
分担研究者 藤城 弘樹(名古屋大学大学院医学系研究科老年科学)  
研究協力者 眞鍋 雄太(藤田保健衛生大学精神科)  
伊苅 弘之(福祉村病院)  
入谷 修司(名古屋大学大学院医学系研究科精神医学)  
磯島 大輔(横浜市大精神科)
- 4) 認知症高齢者に対する介入による変化の客観的指標の検討  
-主に脳機能画像における変化を中心に-……………  
主任研究者 武田 章敬(国立長寿医療センター 第一アルツハイマー型痴呆科)  
研究協力者 鷺見 幸彦(国立長寿医療センター 外来診療部)  
加藤 隆司(国立長寿医療センター 脳病態生理研究室)  
伊藤 健吾(国立長寿医療センター 長寿脳科学研究部)  
小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)  
川合 圭成(名古屋大学大学院医学研究科神経内科学)  
祖父江 元(名古屋大学大学院医学研究科神経内科学)

- 5) 簡易コミュニケーションスケール(軽度認知症用)作成の試み……………
- 主任研究者 川合 圭成(名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学)
- 分担協力者 末永 正機(名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学)
- 武田 章敬(国立長寿医療センター第一アルツハイマー型痴呆科)
- 祖父江 元(名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学)
- 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 相原 喜子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 桑畠 愛(名古屋大学医学部神経内科)
- 6) 大規模調査に有用な新しい認知機能検査、TICS-Jの開発……………
- 主任研究者 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 分担研究者 鷺見 幸彦(国立長寿医療センター外来診療部)
- 服部 英幸(国立長寿医療センター行動心理療法科)
- 武田 章敬(国立長寿医療センター第一アルツハイマー型痴呆科)
- 相原 喜子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 鈴木 亮子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 渡邊 智之(認知症介護研究・研修大府センター)
- 7) 都市部における認知症高齢者の運転能力評価に関する研究……………
- 主任研究者 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 分担研究者 渡邊 智之(認知症介護研究・研修大府センター)
- 研究協力者 藤掛 和広(認知症介護研究・研修大府センター)
- 向井 希宏(中京大学心理学部)
- 柴山 漢人(認知症介護研究・研修大府センター)
- 8) 認知症高齢者への心理的援助としての回想法の効果に関する研究……………
- 主任研究者 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 分担研究者 鈴木 亮子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 9) 介護家族の視点からみた認知症高齢者の終末期医療に関する研究
- その決定過程と本人の意思表示の状況、および医療現場への要望……………
- 主任研究者 山下 真理子(大阪府済生会中津病院神経内科)
- 分担研究者 小林 敏子(平成会新高苑)
- 松本 一生(大阪人間科学大学人間科学部社会福祉学科)
- 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)
- 中村 淳子(大阪市高齢者福祉情報・研修センター)
- 古河 慶子(兵庫医科大学リハビリテーション部)
- 研究協力者 古河 徳仁(西宮協立リハビリテーション病院)

10) 認知症高齢者の Evidence Based Care -ADL 崩壊過程とその対応に関する研究-.....

主任研究者 小長谷 陽子(認知症介護研究・研修大府センター)  
分担研究者 杉村 公也(名古屋大学医学部保健学科)  
研究協力者 田川 義勝, 美和 千尋, 清水 英樹(名古屋大学医学部保健学科)  
小酒部 聡江(東芝林間病院)  
縣 さおり(介護老人保健施設ルミナス大府)  
埜口 義広(介護老人保健施設フジタ)  
中川 雅弘, 白石 成明(小山田記念温泉病院リハビリテーション  
センター)  
後藤 三恵(名古屋市立東市民病院・名古屋大学大学院医学系研究科  
リハビリテーション専攻)  
川村 享平(名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション専攻)  
鈴木 亮子, 相原 喜子, 渡辺 智之, 藤掛 和広(認知症介護研究・  
研修大府センター)

11) 在宅認知症高齢者の主介護者の健康度、健康管理方法、介護到達度に関する  
調査研究.....

主任研究者 杉村 公也(名古屋大学医学部保健学科)  
分担研究者 渡邊 憲子(名古屋大学医学部保健学科)  
近藤 高明(名古屋大学医学部保健学科)  
堀 容子(名古屋大学医学部保健学科)  
新実 夕香里(名古屋大学医学部保健学科)  
桜井 志保美(名古屋大学医学部保健学科)  
星野 純子(愛知県立看護大学看護学部)  
丹羽 さゆり(中部大学生命健康科学部)

12) 社会復帰支援室看護師による認知症高齢者の在宅支援  
-支援の実際と患者背景の検討-.....

主任研究者 銘苅 尚子(国立長寿医療センター)  
分担研究者 住江 浩美(国立長寿医療センター)  
鈴木 奈緒子(国立長寿医療センター)  
野上 宏美(国立長寿医療センター)  
研究協力者 大山 宣子(国立長寿医療センター)

13) 資料